

都 退 教 協 だ よ り

No.305号

2022年2月16日発行

東京都退職教職員協議会 会長 谷口 滋

〒101-0003 千代田区一ツ橋 2-6-2 日本教育会館 2F 東京教組内

☎:03-5276-1311 FAX:03-5276-1312 Mail:totaikyokyo@tokyokyouso.org

4月から年金0.4%引き下げ、 賃上げがなければ年金は下がり続ける！

厚生労働省は賃金の下落により公的年金を0.4%引き下げる改定を発表した。4月から実施され、6月に受け取る年金から引き下げられる。引き下げ額は、平均給与モデルで年額1162円(国民年金259円、厚生年金903円)。2年連続(昨年0.1%減)の引き下げである。今年の年金は、過去3年間(2018年～20年)の名目賃金と昨年の物価の変動率の低い方に合わせて決められます。コロナ禍の賃金下落は2年間続いているので、来年度(19年～21年)も引き下げが予想される事態です。今年大幅な賃上げが実現しない限り年金の目減りに歯止めがかかりません。

25年間、賃金が下がり続ける日本

1997年以降、日本の実質賃金は下がり続けています。同じ低成長の時代でも他の国々は賃金が上がっています。例えば、イギリス・フランスは約3割、アメリカ・ドイツは約2割アップです。一方、日本は約1割ダウンしています。理由は、企業が利益を労働者に分配せず、内部留保をため込み、株主への分配を優先しているからです。大企業の内部留保

は84兆円増える一方で、労働者の実質賃金は32.4万円減っています。(2018～2020年)賃金と連動している年金も減り続ける訳です。

貧困と格差の拡大が進む！

もう一つの問題は、貧困と格差の拡大です。可処分所得が200万円未満の貧困層が倍増し、400万円以上の中間層が減少。富裕層上位50人の金融資産は2.5倍に膨れ上がっています。(2013～21年)

かつての「総中流社会」は、跡形もなく崩れ、中間層が沈んで一部の富裕層と貧困層の格差が広がっています。とりわけ、ひとり親家庭、女性の貧困は深刻で、NPOなどによる食料配布、相談会に人々が殺到する事態が続いています。

大幅賃上げと消費税減税が急務

賃上げと消費税減税こそ、景気回復の端緒になります。これ以上の年金目減りをなくす解決策でもあります。

年金制度も4月から一部変わります

「年金制度の機能強化のための国民年金法

等の一部を改正する法律」が成立し、今年の4月(一部10月)に施行されます。大きな改正ポイント3つを解説します。

① 短時間労働者への適用拡大

公的年金や健康保険などの社会保険から除外されていたアルバイトやパートなどの短時間労働者(年収が130万円未満)にも社会保険が適用されることになりました。

今回の改正で、10月から「100人超の規模の企業」、2024年10月からは「50人超の規模の企業」に、段階的に適用範囲を拡大していきます。厚生労働省の推計では、新たに65万人が厚生年金保険や健康保険に加入することになるようです。

公務職場では、①週勤務時間30時間以上の短時間労働者(期間業務職員)、②週勤務時間20時間以上で2カ月以上雇用見込み、報酬月額8万8千円以上、非学生などの要件を満たす短時間労働者(その他の非常勤職員)、③2カ月を超えて使用される見込みのある臨時に使用される者(臨時的任用職員)が対象になります。

② 在職時年金受給に関する見直し

4月から65歳以上で働いている人についての年金額の改定は、在職中であっても毎年行われます。

今まで報酬と年金が「28万円以上/月」に

なると、年金の一部または全部が停止されましたが、4月からは「47万円以上/月」に引き上げられます。厚生労働省の試算では、この見直しによって年金の一部または全部が停止される人が約37万人から約11万人に減少するそうです。

また、65歳以上で働いている人についての年金額の改定は、今までは、70歳になってからでしたが、在職中であっても毎年10月に行われるようになります。働いた分がすぐに年金額に反映されるので、働くモチベーションにもつながるといえます。

③ 公的年金の受取開始が

60~75歳の間で選べるようになる

年金の受給は65歳からですが、繰り上げると月0.4%減額されます。(現行0.5%)

60歳から受給だと24%減額になります。

$(0.4\% \times 12 \text{月} \times 5 \text{年} = 24\%)$

一方、繰り下げの場合は、月0.7%増額されます。

75歳から年金を受給する場合は84%

$(0.7\% \times 12 \text{月} \times 10 \text{年})$ 増額になります。

しかし、税や社会保険料も増えることも考慮しなければなりません。何歳まで生きられるのかが分からないので、受取開始を何歳にするのが一番有利かは一概に言えません。

介護保険制度を上手に使おう!

誰もが介護保険制度を使う日がいずれ来ます。その時のために、知っておきたいこと、準備しておくことは何か? 「介護保険制度・

現場では」と題して日退教福祉部会の学習会が開催されました。講師の千葉明子さん(介護支援専門員)から、①介護保険を利用する

には、②介護の現状、③感染症対応、④介護現場は社会の縮図、⑤将来に向けて改善すべきことについてお話を伺いました。歳を取れば誰もが病気を抱え、体の衰えを感じます。家族に過重な介護負担を負わせず、社会全体で支え合う仕組みが介護保険制度です。支援が必要だと思ったら迷わず自治体に相談に行き、介護支援専門委員（ケアマネージャー）に、自分に合った介護サービスを作ってもらいましょう。ケアマネージャーは、本人や家族の希望を聞き、本人に適したケア・プランを作成し、サービス事業者との間に立って連絡調整、介護給付の管理もします。また、定

期的に訪問して状況を確認します。

高齢者の自立支援がこの制度の理念です。自立とは、自分の生活の仕方を自分で決める。生活の中で、これだけは自分でできるようにしたい、ということ。ケアマネージャーは、専門職としての知識や情報、経験や技術、ネットワークをもとにその人の能力に応じた生活を実現する専門職です。自分に合わない、きちんと対応してくれないケアマネージャーは変わってもらうのも利用者の当然の権利だと話されました。また、かかりつけの医者にも常に相談できることも介護につながる大切な要素だと思います。

旭川いじめ自殺事件で問われているもの

旭川の中学生いじめ自殺事件で学校の対応が、少女を自殺に追い込まれる事情が想像できる。しかし彼女は小学4年生のときから、ずっとひどい状況におかれていたことが、彼女の母親の手記に書かれていた。

「娘の遺体は凍っていた一旭川少女中学生いじめ凍死事件」という母親の手記を読んだ精神科医の野田正彰さんは、「知らなかった重要な問題が抜けていた」と、少女が小4のときに「発達障害」と診断されたときから彼女の人生が変わっていったことを書いている。

母親の手記によれば、少女が小4のとき、学芸会の練習でみんなが勝手におしゃべりをしたことで先生は怒ってみんなに謝らせた、ということがあった。ところが、そのとき彼女だけは謝らなかった。先生になんで謝らないのかと聞かれた彼女は、「自分はしゃべっていないから」と答えたという。それをおかしく思った先生は、母親に彼女を病院に連れて行くように勧めた。病院で彼女は、「発達障害」と診断される。言われてみれば、「もうしなくていいよ」と叱ると何もなくなる、大人びたしゃべり方をする、言葉の綾が読めない、そんな子どもの日常に、母親も

「発達障害」だったかと納得してしまう。

「発達障害」という言葉は、少なくとも私が教員になったばかりの50年前にはなかった。この言葉が使われるようになって、助けられた人も多いと思う。他の子と何か違うところがあって、なんだかわけがわからなかった子どもたちに「発達障害」という言葉が当てられ、そうだったのかと納得し、他の人にもそう言う言い方で説明ができて、ホッとする人も多いと思う。

それはそれで良いと思うが、それがその子を表すレッテルとなり、社会にあってはいけない存在とされてしまうと、話は違う。

言葉の綾がよめない、その場の雰囲気に合わせてられない、話がずれる、そんなことは誰にでもある。自分が感じたこと、思ったことを表現したことが間違いではなく、むしろ正しいことだってある。学芸会の練習で「私はしゃべらなかった。だから謝らない」は、全く正しい。

それが、彼女の場合、「発達障害」と診断されて、薬を飲まされ、そのために体調を崩し、薬は飲みたくないとうったえたにもかかわらず、ゆるされなかった。いじめにあう前から、自分の人生とは何か、彼女は悩み続け

たに違いない。それがその障害のせいになれ、いじめにあつて自殺未遂をしたら精神病院に入れられた。病院でも、下着も着けられないで閉じ込められるなど、まるで人間扱いされずに過ごした。そしてまたいじめにあう。

「発達障害」とレッテルを貼られたときから、それを受け入れられない社会が、彼女を追い込んだ。「障害」は治すものではない。お互いの違いを受け入れ合うものでなければと、あらためて思う。

片桐健司

会費・カンパを振り込んでいただき、ありがとうございます。

会費を納入してくださった方々
カンパしてくださった方々

前田直也、坂本悦子、
前田直也、坂本悦子、 (敬称略)

・12月15日以降 2月15日現在 郵便振込 00120-5-57271 東京都退職教職員協議会

ひとこと (振込用紙に寄せられた「ひとこと」です)

前田直也 歩行困難のため、皆さんと会えません。がんばって下さい。

坂本悦子 遅くなって申し訳ありません。農薬や化学肥料を使わない野菜栽培を楽しんでいます。手間がかかりたいへんだけど、収穫できた野菜はとってもおいしいです。

武田好永 いつもありがとうございます。今回いただいたお便りにも郵便振替用紙が見当たらず、前回は今回もカンパもできませんでした。私は年金生活なので少ししかできませんが、それでも気になりました。要旨はなくても番号さえわかればと思っております。ますます心配な世の中になっており集会に出るには歳で無理になってきているので、せめて少々のカンパでもと思っております。

(編集部：お心遣いありがとうございます。今号に振込先番号を掲載いたします。)

太田恵康 としも93歳を一ヶ月後に控え、余命を全うしたいと思っております。今期で会を退会します。ありがとうございました。

亡くなられた会員 由井鉄也さん ご冥福をお祈りいたします。

編集後記

- ◇ 立春が過ぎたとはいえ厳しい寒さが続き、コロナ禍も収まりません。皆様、くれぐれもお身体に気をつけて、春を待ちましょう。
- ◇ 名護市長選で辺野古新基地建設反対を訴えた岸本洋平さんが敗れた。しかし、辺野古新基地建設反対の名護市民の意思は変わっていない。NHKの投票所出口調査で、新基地「反対」が65%。そのうちの20%台後半が現職に投票。玉城デニー県政を「評価する」は実に71%。現職の渡具知さんは辺野古新基地の是非を明確にしない戦術で当選しただけで、名護市民の民意はゆるぎない。名護市民は、政府のアメとムチに対して、交付金はもらうが基地建設は反対する、したたかな選択をしたと言えるのではないかと。むしろ、本土の私たちの姿勢が問われている。
- ◇ かつて、教員の超勤手当支給を求める訴訟を組合が起こしたことがある。裁判で負けそうになった政府は4%の手当を出してしのぎ(給特法)、訴訟は取り下げられた。東京教組青年部のアンケート「青年教職員は、今」によると、平均在校時間は11時間35分。80時間以上の超勤が6割に達する。給特法廃止、超勤手当支給を急ぐべし！(谷口記)